

# RV160およびRV260ルータでのIPv6移行の設定

## 目的

この記事の目的は、6in4または6rdを使用してRV160xおよびRV260xルータでIPv6移行を設定する方法を示すことです。

## 概要

インターネットプロトコルバージョン6(IPv6)は、インターネットプロトコルバージョン4(IPv4)に多くの利点をもたらします。IPv6は、より大きなアドレス空間、簡単なアドレス集約、統合セキュリティを提供します。IPv6への移行は、IPv6ネットワークに属するホストがIPv4ネットワークリンク経由で通信するのに役立ちます。

IPv4からIPv6への移行には、6in4というインターネット移行メカニズムを使用できます。6in4では、IPプロトコル番号が41に設定されたIPv4ヘッダーにIPv6パケットをカプセル化するトンネリングを使用します。IPv6では、プロトコル41は、IPv4パケット内にIPv6パケットを埋め込むルーティングプロトコルです。その後、パケットはIPv4インターネットまたはネットワークを介して送信されます。6in4は、一般的に使用される移行メカニズムです。

IPv6への移行を実現する別の方法は、IPv6 Rapid Deployment(6rd)です。6rdはまた、既存のIPv4アクセスネットワークインフラストラクチャへのアップグレードを必要とせずに、インターネットサービスプロバイダー(ISP)が軽量かつ安全な方法でIPv6を迅速に導入できるトンネリングメカニズムです。この方法では、各ISPは一意的なIPv6プレフィックスを使用します。

## 該当するデバイス

- RV160
- RV260

## [Software Version]

- 1.0.00.15

## IPv6移行の設定

RV160x/RV260xでIPv6移行を設定するには、次の手順を実行します。

ステップ1：ルータのWeb設定ページにログインします。



## Router

cisco 1

---

●●●●●● 2

---

English ▼

---

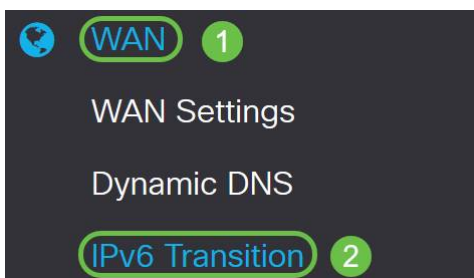
Login 3

©2018 Cisco Systems, Inc. All Rights Reserved.

Cisco, the Cisco Logo, and the Cisco Systems are registered trademarks or trademark of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

注：この記事では、RV260Wを使用してIPv6移行を設定します。設定は、使用しているモデルによって異なります。

ステップ2:[WAN] > [IPv6の移行]を選択します。



ステップ3:[Enable] をオンにして、トンネルインターフェイスを有効にします。

### IPv6 Transition

Tunnel Interface: TUN1

Enable:

ステップ4：説明を入力します。

### IPv6 Transition

Tunnel Interface: TUN1

Enable:

Description:

ステップ5:[Local Interface]と[Local IPv4 Address]に、選択したインターフェイスが表示さ

れます。

## IPv6 Transition

Tunnel Interface: TUN1

Enable:

Description:

Local Interface: WAN (Interface should have a public IP address)

Local IPv4 Address: 140. [redacted] 7

ステップ6:[Apply]をクリックします。

## IPv6 Transition

Apply

Cancel

Tunnel Interface: TUN1

Enable:

Description:

Local Interface: WAN (Interface should have a public IP address)

Local IPv4 Address: --

## IPv6のIPv4トンネル(6in4)

IPv4トンネル(6in4)を追加するには、次の情報を入力します。

ステップ1:[IPv6 in IPv4 Tunnel (6in4)]オプションボタンを選択します。

IPv6 in IPv4 Tunnel (6in4)  IPv6 Rapid Deployment (6rd)

Remote IPv4 Address:

Local IPv6 Address/Length:  /

Remote IPv6 Address/Length:  /

ステップ2 : リモートIPv4アドレスを入力します。

IPv6 in IPv4 Tunnel (6in4)  IPv6 Rapid Deployment (6rd)

Remote IPv4 Address:

Local IPv6 Address/Length:  /

Remote IPv6 Address/Length:  /

ステップ3 : ローカルIPv6アドレスと長さを入力します。

IPv6 in IPv4 Tunnel (6in4)
  IPv6 Rapid Deployment (6rd)

Remote IPv4 Address:

Local IPv6 Address/Length:  /

Remote IPv6 Address/Length:  /

ステップ4：リモートIPv6アドレスと長さを入力します。

IPv6 in IPv4 Tunnel (6in4)
  IPv6 Rapid Deployment (6rd)

Remote IPv4 Address:

Local IPv6 Address/Length:  /

Remote IPv6 Address/Length:  /

ステップ5:[Apply]をクリックします。

IPv6 Transition

Tunnel Interface: TUN1

Enable:

Description:

Local Interface: WAN (Interface should have a public IP address)

Local IPv4 Address: --

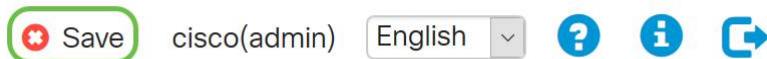
IPv6 in IPv4 Tunnel (6in4)
  IPv6 Rapid Deployment (6rd)

Remote IPv4 Address:

Local IPv6 Address/Length:  /

Remote IPv6 Address/Length:  /

ステップ6：設定をリブート間に保持する場合は、実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーする必要があります。これを行うには、ページ上部の[保存]アイコンをクリックします。



ステップ7:[Configuration Management]で、[Copy/Save Configuration]セクションまでスクロールします。[Source]が[Running Configuration]、[Destination]が[Startup Configuration]であることを確認してください。[Apply] をクリックします。

Configuration Management

Configuration File Name

Last Change Time

Running Configuration: 2019-Mar-11, 10:34:16 UTC

Startup configuration: --

Mirror Configuration: 2019-Mar-11, 15:00:12 UTC

Backup Configuration: --

# IPv6 Rapid Deployment(6rd)

IPv6 Rapid Deployment(6rd)では、各ISPは独自のIPv6プレフィックスのいずれかを使用します。したがって、プロバイダーは、IPv6ネットワークに到達できるすべてのネイティブIPv6ホストから6番目のホストの可用性を保証されます。

ステップ1:[IPv6 Rapid Deployment (6rd)]オプションボタンを選択します。

IPv6 in IPv4 Tunnel (6in4)  IPv6 Rapid Deployment (6rd)

Configuration Mode:  Manual  Automatically for DHCP

IPv4 Address of Relay:

IPv4 Common Prefix Length:

IPv6 Prefix/Length:  /

ステップ2:[Configuration Mode]セクションで、[Automatically from DHCP]をクリックして、DHCP ( オプション212 ) を使用して6番目のプレフィックス、リレーIPv4アドレス、およびIPv4マスク長を取得します。

IPv6 in IPv4 Tunnel (6in4)  IPv6 Rapid Deployment (6rd)

Configuration Mode:  Manual  Automatically for DHCP

IPv4 Address of Relay:

IPv4 Common Prefix Length:

IPv6 Prefix/Length:  /

ステップ3：必要に応じて、[手動]を選択し、次の6番目のパラメータを設定します。

- リレーのIPv4アドレスを入力します。
- IPv4 Common Prefix Lengthを入力します。
- IPv6 Prefix / Lengthを入力します。IPv6ネットワーク ( サブネットワーク ) は、プレフィックスによって識別されます。ネットワーク内のすべてのホストのIPv6アドレスの初期ビットが同じです。ネットワークアドレスの共通の初期ビット数を入力します。デフォルトは 64.

注：上記のパラメータは、ISPによって定義される必要があります。

IPv6 in IPv4 Tunnel (6in4)  IPv6 Rapid Deployment (6rd)

Configuration Mode: 1  Manual  Automatically for DHCP

IPv4 Address of Relay:  2

IPv4 Common Prefix Length:  3

IPv6 Prefix/Length:  /  4

ステップ4:[Apply]をクリックします。

IPv6 Transition

Tunnel Interface: TUN1

Enable:

Description:

Local Interface: WAN (Interface should have a public IP address)

Local IPv4 Address: --

IPv6 in IPv4 Tunnel (6in4)  IPv6 Rapid Deployment (6rd)

Configuration Mode:  Manual  Automatically for DHCP

IPv4 Address of Relay:

IPv4 Common Prefix Length:

IPv6 Prefix/Length:  /

**注：** ページの上部にある[Save]アイコンをクリックして、[Configuration Management]セクションに移動し、実行コンフィギュレーションファイルをスタートアップコンフィギュレーションファイルにコピーします。

これで、RV160x/RV260xルータでIPv6移行が正常に設定されたはずです。